

■南小学校区 第1回きずなづくりトークの意見概要と方向性

テーマ「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」(※●は市長発言)

7月18日 消防署

発言者	現況・課題	対応策・要望
◆第1部「地域座談会」		
富田町自治会	○昨年の防災訓練は 210 軒中 215 人が参加。避難所を南中から南小に変更したため参加者が増加したのかもしれない。	
富田町自治会	○富田町は防災活動が盛ん。役員だけで 50 人以上。各班がそれぞれ企画、提案し、防災クイズなど楽しみながら防災訓練が出来る。きずなづくりも兼ねている。 ○今年度は新たにハイゼックスを使用した炊き出し訓練を予定。 ○小学生は参加してくれる。中学生、特に高校生の参加がない。	○今年の防災テーマは「みんなで防災」。防災会役員に中・高校生、大学生、老人クラブの方も入っている。なるべく多くの世代が参加できる訓練を実現したい。 ○構成員がそれだけ幅を持っている事例は珍しい。(ファシリテーター)
青木町内会	○近隣 6 町内で合同防災訓練を実施。この 10 年間、スモーク、三角巾講習会、簡易ポンプ、消火器訓練等ほとんど同じ内容。 ○今年 9 月 1 日に防災訓練を計画。マンネリ化している従来のパターンから抜け出せないことが今後の課題。	○三角巾ではなく、もっと身近なもので応急処置を行うなど、実践に即した訓練を行いたい。 ○今日の話からヒントを見つけてもらえるといい。(ファシリテーター)
玉川自治会	○防災訓練は町内で実施。今年は 9 月 1 日を予定。 ○やり方を昨年変更。各家へ安否確認の用紙を配布後、町内 5 箇所の集合場所へ組長が集合、各組の用紙を回収し対策本部に持参する。参加者には非常食を配布。	○はじめて行ったが例年より人が集まったので、今年も同様に実施予定。
南本町御殿町内会	○人数も少なく高齢化している。地震は 30 年来ないと誤解している人もいる。なかなか難しい。	○色々な方がいる。説得、理解していただく。(ファシリテーター)
南本町高台町内会	○防災訓練は 9 月の第 1 週日曜日。各組長が組の人を引率し避難。 ○毎回 120~130 人ほど参加。園児、小学生は親が連れてくる。中・高校生の出席がない。 ○訓練内容は可搬ポンプ、消火器、炊き出し等。今年は特に市、消防署の協力を得て AED 訓練、緊急対応の処置を計画。	○緊急処置、心臓マッサージ、AED などの実習に参加した。防災訓練のときに役立たせたい。 ○少しずつ新しい要素を加え、自身も経験をつまねながら進められている。(ファシリテーター)

北田町町内会	<p>○訓練は実施していない。高齢者が多く見守り活動をしなが、集合場所を何度も確認している。</p> <p>○高齢者はなかなか集まる機会がない。</p> <p>○今年はみんなを外に連れ出す意味も兼ねて、一回やっておこうか検討中。</p>	○高齢者は孤立死、孤独死など深刻な問題がある。集まる機会は大切。(ファシリテーター)
中田町北町内会	<p>○昨年まで訓練は実施していなかった。</p> <p>○昨年、防災委員・組長で防災倉庫の点検を行い、今年中田町南町内会と共同で防災訓練を実施予定。まず第一歩、消火器訓練、炊き出し訓練等を行いたい。</p>	○はじめることはハードルがあるが、協力して進められるといい。(ファシリテーター)
中田町南自治会	<p>○要援護者は大体把握しているが、マンションの方は参加がないので非常に困る。</p> <p>○訓練内容は炊き出し、防災用品点検、発電機稼働、消火訓練。中田町北と実施。</p> <p>○一番の課題はマンネリ化と参加者が限られていること。子ども会と連携しているので園児・小学生は参加するが中・高校生は不参加。</p>	
南田町町内会	<p>○毎年 11 月上旬に防災訓練実施。</p> <p>○一昨年から防災役員が基本的な救命知識、機械の使用法を勉強し、一週間後町内の皆に教える形を取っている。</p> <p>○訓練終了後、消防署イベントに参加し、色々な知識を持ってもらう。</p> <p>○子どもと中学生の参加は非常に少ない。</p>	
南本町新御殿町内会	<p>○防災訓練は毎年実施。100 世帯中 30~40 人の参加。内容は炊き出し(ハイゼックス使用)、握り飯を作る、市から防災講話に来てもらう、ビデオを見る等。</p> <p>○高齢化やマンションの住人が多く、参加率をあげるのは大変。中・高校生は参加なし。</p>	
新谷自治会	○近隣 6 町内で合同防災訓練を実施。町内にある福祉施設も、訓練に参加している。	○参加する過程で意見交換をして課題などが出てくる。
平田自治会	○近隣 6 町内で合同防災訓練実施。参加者は毎年少なくなり 70 名程度。内容もポンプ、消火器、三角巾などマンネリ化。	○少しでも参加者を増やしたい。
モナーク三島	○近隣 6 町内で合同防災訓練実施。参加者	

自治会	<p>は少ないと聞いている。</p> <p>○まずイベントへの参加が課題。(ファシリテーター)</p>	
ウイスティリア三島青木自治会	<p>○近隣6町内で合同防災訓練実施。</p> <p>○自治会が出来て5年。マンション内の住民同士も全員把握できていない状況。</p> <p>○先日、防災フェスタと銘打ち防災の勉強会を開催。小学生は多く参加してくれたが、中高生は1人もいなかった。</p>	<p>○防災のことも試行錯誤して考えなければいけないと思うが、まず住民のコミュニケーション、きずなづくりが大事。</p>
ウイスティリア三島青木自治会	<p>○先月、危機管理課と自主防災会でハグ(避難所運営訓練)を実施。</p> <p>○防災リーダー訓練に参加するため、子どもたちをマンション内で預かって頂いた。昨年、初めて実施した七夕祭り・クリスマス会で、顔見知りになれたおかげ。</p>	<p>○防災をきっかけにして輪が広がっているいい事例だと思う。(ファシリテーター)</p>
北田町仙台町内会	<p>○今まで防災訓練をやったことは一切ない。ここで聞いた話がヒントになる。</p>	<p>○今後の参考にしていただければと思う。(ファシリテーター)</p>
消防団第17分団	<p>○訓練が可搬ポンプ、三角巾などを使っての恒例行事みたいになっている。</p>	<p>○初期活動(自助・救助・安否確認など)が大前提。技術よりも行動が大事。</p>
◇幼稚園・小学校・中学校の取組について		
南中学校	<p>○子どもたちはやはり部活が中心。</p> <p>○中学生は災害発生時、確実に力になる。防災訓練には参加させていきたい。</p>	<p>○防災訓練が市内一斉同日開催ならば、中学生全員が参加できるのではないかと。</p> <p>○日程調整を校区の集まりの中で出来るといい。(ファシリテーター)</p>
南小学校	<p>○訓練時、小学5・6年生は手伝いが出来る。褒めてあげることで参加意欲がわく。</p> <p>○防犯・防災を含め、年5回避難訓練を実施。3回が地震・火災の対応。基本の訓練はするべき。</p> <p>○マナー化しないために、去年はスモークハウス、今年は防災講話と少しずつ変化する部分と、毎年同様に行う部分を大切にす。</p> <p>○命を落とさない、大怪我をしない、それが1番大事。</p>	<p>○PTAと相談しながら、なるべく早く子ども1人1食分の非常食を準備したい。</p> <p>○プラスワン、お祭り等で知人を連れてきて知り合いを増やすことが訓練参加者の増加に繋がる。</p> <p>○昨年、生徒1人分の非常食確保を課題として提示。着実に進められている。プラス1も大変共感する。(ファシリテーター)</p>

南幼稚園	<p>○4歳児1クラス、5歳児1クラス計34名の園児が在籍している。安全安心な活動を心がけている。</p> <p>○定期的に地震、火災、不審者対応の訓練、予告なしの訓練等実施。5歳児は親子での起震車体験、4歳児は濃煙体験予定。PTA講習会では心肺蘇生とAED使用方法を継続して実施。</p> <p>○南小と南中と連携して、合同引渡し訓練を4月に実施。南中生徒会に依頼しMLSと防犯訓練を計画。昨年度は20～30人の生徒が参加。日々の交流がある。</p> <p>○地区の防災会議にも参加。二次避難場所として体育館の中の音楽室を使用。</p>	<p>○幼小中の教員を対象に「釜石の奇跡」の教授の講座、園独自で避難を再現したDVDを視聴する等、防災教育の大切さを職員も学んでいる。</p> <p>○今年は岩手県山田町の船越小学校で、実際に子どもたちと避難された先生、校務員の話聞く予定。</p> <p>○小中との連携、地域の人とのつながりを大切にしていきたい。</p> <p>○地域と子どものつながりは校区単位で考える場合、接点になってくる。(ファシリテーター)</p>
◆第2部「市長との座談会」		
市長	<p>●一昨年の文部科学省発表によると、東海地震が30年以内に発生する確率は88%。明日発生する可能性がある。</p> <p>●三島の場合、火事を出さないことがきわめて大事。住宅が密集し消防車も足りない。自主防災会の初期消火活動が重要。</p> <p>●建物の下敷きになった人を救出・病院搬送するのはそれぞれの自主防災会。救急車は市内に4台のみ。阪神淡路大震災時には8m以下の道路はすべて通行不可。救急車は来ないことを念頭にどうするか話し合い、訓練をして欲しい。</p>	<p>●第4次被害想定では東海地震級、南海トラフの巨大地震級、相模湾の地震等のケースが出ている。参考にしてほしい。</p> <p>●この地区はマンションが多い。停電でエレベーターが停止しドアも開かない場合、救出救助、階段での避難、水・食糧の調達などはマンション住民が行う。高齢者の避難方法、仮設トイレ共同管理の必要などを理解しておいてほしい。</p>
富田町自治会	<p>○富田町には南北に通じる道路が5本あるが、東西には1本もない。防災上困る</p> <p>○小・中学校などに車の通れる箇所を作ってくれないか。</p>	<p>●基本的には徒歩での避難になる。車での避難は大変危険。</p> <p>●小中学校は施錠していないので通行は可能。</p>
民生委員	<p>○市で各町内の要援護者名簿を出している。</p>	<p>○高齢者の見守り等を通じてそれぞれの地区にどんな方がいるのか把握して欲しい。</p>
市長	<p>●災害弱者への防災の取組では芙蓉台がサポート隊を作り毎月訓練実施。自主防災会の中に専門の部署をおく地区もある。</p> <p>●市で要援護者2,800人の名簿を作成した。取りに来た地区には一緒に笛を渡した。</p>	<p>●防災訓練時に実際に笛を吹いてどんな音が聞いて欲しい。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ●災害対策基本法が改正され、災害弱者名簿を市町村が作成する。今後災害時は個人情報保護の枠を外し、救助活動に名簿が使用可能となる。 	
南小学校 P T A	<ul style="list-style-type: none"> ○見守りをしていただき子ども達は安心して通学出来ている。 ○地域の人と顔見知りになることが大事。 ○南小P T Aおやじの会は今年 11 年目。今年はさらに地域と子供たちをつなぐよう事業展開を図る。 ○小学生と地域の方が顔見知りになるようイベントや活動を実施予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ○防犯が最終的には防災につながる。コミュニケーションを大事にしたP T A活動を行っていきたい。 ○災害時はお互いに助け合い、高学年が活躍できる体制が取れるように頑張っていきたい。
南中学校ML Sおやじの会	<ul style="list-style-type: none"> ○2月に南中におやじの会を立ち上げた。役割は3世代をつなぐこと。 ○地域の方の目が増えるのは防犯・防災の面で大きな効果。 ○災害発生時、助け合いの中心になるのは中学生。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学生に防災訓練の企画案を出させてはどうか。昼夜、災害初期段階、継続して避難所生活を送る段階など色々なパターンを中学生に考えさせ、それに地域の方が寄り添っていくなど。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ●9月1日は地震予知できた場合の訓練。一次避難地に集合し安否確認、地震発生後、避難所へ移動する。12月第一日曜の「地域防災の日」は、突発的な地震が発生した場合の訓練。長伏などは大々的に実施。部活がシーズンオフのため中高生も参加しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●防災訓練の日程については改めて、皆さんで検討して欲しい。
老人クラブ		<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者には頑固者がいることを認識して欲しい。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ●避難所は家が倒壊・焼失などで、住めなくなった人のためにある。 ●現在かなりの数の町内会で黄色いハンカチや旗の活動をしている。安否確認に回る人たちが、ここは無事だと確認できるので救助が迅速に出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●配布資料「大切な家族の命は守れます！」(広報みしま4月1日号で配布済)、「災害時市民行動計画」を町民に徹底するよう呼びかけて欲しい。 ●普段の防災訓練で、この黄色い旗使用を検討して欲しい。
民生委員	<ul style="list-style-type: none"> ○富田町自主防災会は、救出救護班がある。 ○昨年、救護班から要援護者の場所がわからないため、地図に印をしていいかとい 	<ul style="list-style-type: none"> ○要援護者の居場所を知ることは必要ではないか。

	<p>う話が出た。</p> <p>○個人情報保護などの問題があるので、今年は一軒一軒回り、地図に印をつける了解を得た。</p>	
民生委員	<p>○災害発生時は組長が集まり、リストと照らし合わせ、安否確認をすることになる。</p> <p>○情報として持っていないと体が動かない。民生委員も色々調査したいと思う。</p>	<p>○町内の誰がどこに住んでいるのか確認しておいて欲しい。</p> <p>○本人の了解をとってあるので遠慮なくその家を訪ねてほしい。</p>
市長	<p>●岩手県山田町は、明治時代に津波で大被害を受け、役場の横に「てんでんこの碑」をたてたが800人余の方が亡くなった。</p> <p>●津波から助かった人たちは、日頃から防災訓練に出ている人だった。</p> <p>●きずな作りのポイントは①防災訓練の参加者を増やす。②運動会を活発に行う。③お祭りを活発に行う、大勢の方に出てきてもらう。</p>	<p>●備えあれば憂いなし、大地震が来ても一人も怪我をしないような地区になることを願っている。</p> <p>●出来る限り防災訓練の参加者を増やす努力してほしい。</p> <p>●今日出た議論は各町内に持ち帰って、次回もっと深い議論が出来ればいいと思う。</p>